

# TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース eyes91

巻頭「荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-」展





上〈センチメンタルな旅〉より 1971年／表紙 上〈冬の旅〉より 1991年 表紙 下〈センチメンタルな旅〉より 1971年

ARAKI Nobuyoshi  
Sentimental Journey  
1971- 2017-

総合開館20周年記念 20 Year Anniversary

## 荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-

ARAKI Nobuyoshi Sentimental Journey 1971- 2017-

荒木経惟インタビュー

東京都写真美術館では、当館の重点収蔵作家である荒木経惟の個展を開催します。「アラーキー」の愛称で知られ、世界中から絶大な評価を得ている荒木作品の中心にあるもの、それは妻・陽子の存在です。二人の新婚旅行を撮影した『センチメンタルな旅』(1971年)は、写真家・荒木の決意表明でもあり、1990年に陽子が他界した後も続いています。本展について、荒木氏にお話をうかがいました。

— まず、本展のタイトル「センチメンタルな旅 1971-2017-」についてお伺いしたいのですが。

これまでずっと、「旅」っていうものは永遠に続くも

ののだと思ってやってきたけれど、最近ではもうそろそろこの辺りでゴールのテープを切ってもいいのではないかなという心境にもなっていたところで、それには体力的な面で言えば、癌を患ったことや、片目の視力を失ったことなどがあり、さらにもう十分な評価をもらってきたと思うので、もう写真はいいのではないかなという感じがしてきたり。そして時折、究極は「書」なんじゃないか、などと敢えて言ってみたりして。そして、人間の心の究極は白黒の濃淡として形あるものであり、書いていて、なんとなく浮かんできた曲線などにあるのかというようなことを思うような、そういう老境の域に入ってきてしまっていた。

そこに今回の展覧会の話があったので、もうこれ

で「センチメンタルな旅」を終わらせようかと、タイトルも「センチメンタルな旅。」と、丸をつけて終わらせようという気分もあったが、そのうちに、タイトルの「1971」から棒線を引いて、「2017」の後にも棒線を引いてみたら、なんかまだ続いていくような感じがしてきた。今年はとても多くの展覧会を行うので、これで一気に最後の直線コースかと思ったけれど、まだどんどんその後が続いていくような感じになってきて。少なくともオリンピックの年、80歳になるくらいまでは、続くのかなと思いはじめると、やっぱりまた、次から次へとやりたいことが出てきてしまい、海外から来年度の企画が来たりして、やっぱりやめられないのかなあと困っているところで。そんな心境の変化にも影響している訳で、タイトルの最後の棒線「-」は、すごく重要な意味を持っているという訳です。

— 次に「センチメンタルな旅」について伺います。昨年、『センチメンタルな旅』の複製版が発行されて、全108点を写真集として手に取って見るできるようになりましたが、今回の展覧会は、展示空間の中でプリントとして、全点を見られる貴重な機会となりま



〈センチメンタルな旅〉より 1971年

ものは、写真家だけのわがままによる、個人的なものだけではなくていうことを意味しているわけで、そうして、どんどん変化していくからこそ、写真は面白い。

写真展やるとか写真集出すということは、私の写真を面白いと思って選んでくれて、そしてどこがいいのかを説明して人に伝えて、理解してもらおう作業ということで、翻訳、あるいは通訳をしてくれるということだと思っている。要するに、きちんとその時代の人たちが褒めてくれたり、評価を決めてくれたりというようなこと、それが面白いわけ。だからその大変な役割は、一応責任持って果たして欲しいね。

すが、それについてはどのように思われますか。

そうだなあ、まるで回遊魚のように、見る人に動いてもらいながら見てもらうという感じになるのかな。写真の行為っていうのは、見る人がいないと終わらないわけで、撮って見せるというこちらの行為としては、ちょっと未練を引きずって、過去を出している訳なんだけれど、見る人は、そこから自由に未来を作っていくいいわけで、つまり見るという行為から、その先の未来を引き出していくのは見る人に委ねられている。だから一枚の写真っていうのは、未来を予感させるものでもある。それが見ることの魅力であり、写真の魅力であると言えるだろう。つまり、写真という



〈空景〉より 1989-1990年



〈写狂老人A日記 2017.1.1-2017.1.27-2017.3.2〉より 2017年

— 今回の展覧会では、今年撮影された、最新作の〈日記〉も出品され、同時期に開催される「写狂老人A」展(東京オペラシティ アートギャラリー)に出品される〈日記〉と連なるものとのことですが、それについて教えてください。

全て日付を入れて撮っている。先に始まるオペラシティでは、全て7月7日の日付で、7月7日っていうのは、亡き妻、陽子との結婚記念日で、別れても年に一回は、その日に会おうって約束していた日です。実は去年からもう全てその日付にして撮り始めていた。だからデジタルより、さらに早いスピードで日付を先取りしていて、それはデジタルに対する揶揄というか、デジタルと勝負しているというような気分で撮っている。



〈センチメンタルな旅〉より 1971年

両方とも600~700点ずつぐらい並べて展示するんだけど、写真美術館では、今年の1月1日から陽子の命日1月27日、そしてさらに、チロ(愛猫)の亡くなった3月2日までを、全て本当に撮影した日付を入れて撮っている。たった一日の中でもヌードとか空、食べ物とか、様々なものを様々に撮っているから、みんな違うわけ。何を撮ってもみんな魅力的に思えるし、ボケたりブレたりしてるものは除こうって時期もあったけれど、今はそうしたものも含めて、全てが素晴らしく見えてくる。カメラのフレーミング自体に入ってきたものが自分のパラダイスっていうような気分になってきていて、方法とかそういうものじゃないんだよ、そういう時期に来ていると感じている。目下の心配事は、天が与えてくれた才能を使い切れるかどうかでことぐらいかな。ハ、ハ、ハ。

— いろいろと興味深いお話をありがとうございました。

まだ何も言ってないんだけどね。そうだな、まあ「写真元気!」とか書いてくれりゃあいいよ。

(インタビュー・文 北澤ひろみ)

〈センチメンタルな旅〉は東京都写真美術館蔵、そのほかは作家蔵



〈遺作 空2〉より 2009年



〈愛のバルコニー〉より 1985年

総合開館20周年記念 20 Year Anniversary

## 荒木経惟 センチメンタルな旅 1971- 2017-

ARAKI Nobuyoshi Sentimental Journey 1971- 2017-

2F 2017.7.25|火|-9.24|日|

荒木経惟は、1960年代から活動を始め、国の内外で高い評価を得ています。荒木の作品は、テーマや手法が多岐にわたることでも知られ、これまでに500冊を超える写真集を上梓するなど、その制作意欲は現在もなお、尽きることがありません。

本展は、その膨大な作品群から、妻・陽子というテーマに焦点をあてた展覧会です。荒木自らが「陽子によって写真家になった」と語るように、1960年代の出会いから1990年代のその死に至るまで、陽子をもっとも重要な被写体であり、死後もなお荒木の写真に多大なる影響を与え続けてきました。本展では、陽子を被写体とする写真や、その存在を色濃く感じさせる多様な作品を通して、荒木が重要視している被写体との関係性を探り、また彼の写真の神髄である「私写真」について考察していきます。

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社 【協賛】株式会社資生堂／東京都写真美術館支援会  
【協力】株式会社写真弘社  
【観覧料】一般 900(720)円／学生 800(640)円／中高生・65歳以上 700(560)円 ※()は20名以上の団体料金ただし、7月28日(金)-8月25日(金)の毎金曜日18:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(一般 720円／学生・中高生 無料／65歳以上 560円、各種割引の併用不可)

| 荒木経惟展相互割引 |

東京オペラシティ アートギャラリー「荒木経惟 写狂老人A」展(7/8-9/3)の入場券をご提示いただくと、本展入場券が団体料金になります。また本展入場券を「荒木経惟 写狂老人A」展にご提示いただいた場合も団体料金になります。詳細はホームページをごらんください。

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

【関連イベント】

関連トーク「22世紀アラーキー論 -ずっとセンチメンタル-」

【出演】伊藤俊治(美術史家・東京藝術大学教授)、斎藤環(精神科医) 北澤ひろみ(本展ゲスト・キュレーター)

【司会】藤村里美(当館学芸員)

【日時】2017.8.6(日)14:00-16:00

朗読会+トーク

荒木経惟の作品についての詩を作者自らが朗読します。

【出演】吉増剛造(詩人)、朝吹真理子(作家)

【日時】2017.9.16(土)14:00-16:00

各回とも

【会場】東京都写真美術館1階ホール

【定員】190名(整理番号順入場/自由席)

【入場料】無料/要入場整理券

※当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

【ゲスト・キュレーター/当館担当学芸員による  
ギャラリートーク】

会期中の第2・第4金曜日14:00より、ゲスト・キュレーター/担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

総合開館20周年記念 TOPコレクション

# コミュニケーションと孤独 —平成をスクロールする 夏期

20 Year Anniversary TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part 2 Communication and Solitude

3F 2017.7.15|土|-9.18|月・祝|

TOPコレクションは、毎年一つの共通テーマで、三期にわたって東京都写真美術館のコレクションを紹介する展覧会シリーズです。今年のテーマは「平成」です。メールやインターネットの普及、肖像権侵害、個人情報保護、コミュニケーション障害や孤独死など、おもに平成という時代に起き始めた現象により、他者とのコミュニケーションのはかりかた、人やものとの距離の取りかたは変化し、複雑化が進んでいます。直接対峙することによってできあがるメディアである写真は、撮影者と被写体の間に何らかのコミュニケーション、関わりが必須となります。作家たちは、こうした状況のなかで、何を撮影し、表現しようとしているのか、また、作家と被写体、そして鑑賞者との関係性にはどのような変化が起きているのでしょうか。

夏期となる本展では、当館の34,000点を超えるコレクションの中から、平成年代に制作された作品を紹介しながら、時代とともに変化してきたコミュニケーションのありかたを考えます。



やなぎみわ《MIWA》〈マイ・グランドマザーズ〉より 2001年  
発色現像方式印画



北島敬三《Suga Chitose Oct. 28, 2005》〈PORTRAITS〉より  
2005年 発色現像方式印画

## 出品予定作家

北島敬三、菊地智子、大塚千野、屋代敏博、中村ハルコ、やなぎみわ、郡山総一郎、石内都、ホンマタカシ ほか



菊地智子《鏡の前のグイメイ、重慶》〈I and I〉より 2011年  
インクジェット・プリント

【主催】東京都 東京都写真美術館 【協賛】凸版印刷株式会社

【観覧料】一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金  
ただし、7月21日(金)-8月25日(金)の毎金曜日18:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(一般 400円/学生・中高生 無料/  
65歳以上 200円、各種割引の併用不可)



大塚千野《1982 and 2005, Paris, France》〈Imagine Finding Me〉より  
2005年 発色現像方式印画



中村ハルコ《光の音》より 1993-98年 インクジェット・プリント



屋代敏博《恵比寿ガーデンプレイス》〈回転回LIVE!〉より 2008年 発色現像方式印画

## 関連イベント

視覚障害者とつくる  
美術鑑賞ワークショップ

2017.9.3(日) 10:30-12:30

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

【対象】どなたでもご参加いただけます

【定員】14名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

【参加費】500円

じっくり見たり、つくったりしよう!

2017.8.19(土)、20(日) 各日10:30-12:30

出品作品に写っているものについて参加者全員で対話をしながらじっくり鑑賞したあと、簡単な写真制作を行います。※作品解説ではありません。

【対象】小学生とその保護者(2人1組)

【定員】各日10組。事前申込制、先着順。

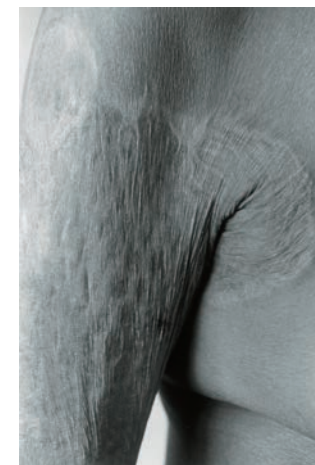
【参加費】800円(別途本展覧会チケットが必要です)

※各イベントの申込方法などの詳細は、決定次第ホームページでお知らせします。

## 担当芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

事業内容は予告なく変更される場合があります。  
最新の情報はホームページをご覧ください。



石内都《25 Mar 1916 #31》〈mother's〉より  
2000年 ゼラチン・シルバー・プリント

春期および秋期の展示は  
P10をご覧ください

スタンプラリー開催!  
詳細はP12をご覧ください

# エクспанデッド・シネマ再考

Japanese Expanded Cinema Revisited

B1F 2017.8.15|火|-10.15|日|



シュウゾウ・アヅチ・ガリバー《シネマティック・イリュミネーション》1968-69年 インターメディア 東京都写真美術館蔵

当館の映像コレクションを軸に、映像メディアの歴史を振り返りながら、未来の映像の可能性を探る「エクспанデッド・シネマ再考」展を開催します。「エクспанデッド・シネマ(拡張映画)」は、従来の映画館等でのスクリーンへの投影とは異なった方法で上映される映画です。それは、今日では既に定着しているマルチプロジェクションやループ上映、ライブ・パフォーマンスの先駆けとなるもので、同時代のインターメディアやアート&テクノロジーの状況と呼応しながら、映像がもつ多様な可能性を

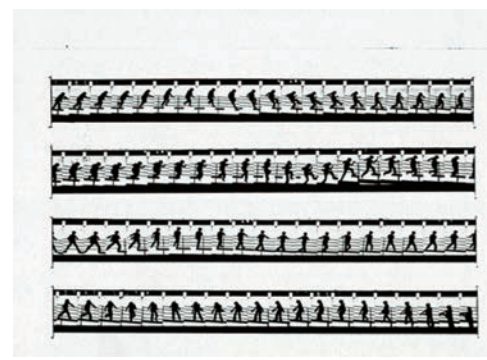
再発見していく試みでした。この上映形式は、1960年代半ば頃から欧米を中心に、美術家や実験映像作家によって展開されていきます。本展では、「エクспанデッド・シネマ」の誕生から様々な実験を繰り広げた日本の作品に着目し、その独自性と先見性を検証していきます。

## 出品予定作家

飯村隆彦、シュウゾウ・アヅチ・ガリバー、おおえまさのり、松本俊夫、城之内元晴、真鍋博、佐々木美智子 ほか

【主催】東京都 東京都写真美術館 【協賛】凸版印刷株式会社

【観覧料】一般 600(480)円/学生 500(400)円/中高生・65歳以上 400(320)円 ※()は20名以上の団体料金  
ただし、8月18日(金)、25日(金)の18:00~21:00はサマーナイト・ミュージアム割引(一般480円/学生・中高生無料/65歳以上320円、各種割引の併用不可)



上)松本俊夫《つぶれかかった右目のために》1968年 マルチプロジェクション(16ミリフィルムより変換) 東京都写真美術館蔵

中)シュウゾウ・アヅチ・ガリバー《シネマティック・イリュミネーション》1968-69年 インターメディア 東京都写真美術館蔵

下)飯村隆彦《リリパット王国舞踏会》1964/66年 ダブル・プロジェクション(16ミリフィルム) 個人蔵

## 関連イベント

出品作家によるアーティストトーク

2017.8.19(土)飯村隆彦  
20(日)おおえまさのり  
26(土)シュウゾウ・アヅチ・ガリバー  
各日14:00-15:30 [定員] 各回50名 [会場] 2階ロビー  
※当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

## 8ミリ自家現像ワークショップ

8ミリフィルム(モノクロ)での撮影から現像、上映までを全2日間で行う制作ワークショップです。  
2017.9.23(土・祝)、24(日) 各日10:15-19:00  
[定員] 12名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)  
[会場] 1階スタジオ [参加費] 5,000円 [講師] 石川亮(東京国立近代美術館フィルムセンター技術員、映像作家)、郷田真理子(フィルム技術者、株式会社IMAGICAウエスト)

## 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日16:00より。観覧チケット(当日消印)をご持参ください。



第10回恵比寿映像祭・国際シンポジウム  
インヴィジブル、インターメディア、エクспанデッド映像の可能性(仮称)

来年2月開催の「第10回恵比寿映像祭」を記念し、展示を読み解くための、国際シンポジウムをプレイベント企画として開催します。

2017.10.9(月・祝)14:00-17:00(13:45開場)  
英日同時通訳付

【協力】明治学院大学言語文化研究所

【会場】東京都写真美術館 1階ホール

【定員】190名(入場無料、整理番号順入場/自由席)

【出演】ブランデン・W.ジョセフ(コロンビア大学教授、美術研究者)、平沢剛(明治学院大学研究員、映画研究者)、ジュリアン・ロス(ロッテルダム国際映画祭プログラマー、映画研究者)

※当日10時より1階ホール受付で入場整理券を配布します。詳細はホームページをごらんください。

【主催】東京都/東京都写真美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)/日本経済新聞社

日本の  
エクспанデッド・  
シネマ

「エクспанデッド・シネマ」が登場する1960年代の日本は、政治や社会が大きく変化していく時代でした。本展では日本の作品の独自性と先見性に着目し、時代の変化のなかで、個人の日常やさまざまな境界を拡張していく実験にも注目していきます。また海外作家の事例や「エクспанデッド・シネマ」が多く登場したことで知られているモントリオール万博(1967)などの関連資料とあわせ、歴史的に「エクспанデッド・シネマ」を再考していきます。

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

## ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館

Dayanita Singh, Museum Bhavan

**2F** 2017.5.20|土|-7.17|月・祝|

いま世界で最も活躍の著しい写真家のひとりである、ダヤニータ・シン。国内初の大規模個展となる本展では、美術館の中に移動式の「美術館」が登場するシリーズ〈インドの大きな家の美術館〉を本邦初公開します。視覚的な小説とも呼べるような、ドキュメンタリーとフィクション、夢と現実、不在と実在が綯い交ぜになったユニークなダヤニータの世界。詩的で美しい世界のなかに、美術館のシステムやマーケットの問題、現代社会におけるセクシュアリティや、格差、階級、ジェンダー、アーカイブ等の様々な問題が示唆されています。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社 [協賛] 東京都写真美術館支援会員/凸版印刷/資生堂 [協力] 全日本空輸  
[観覧料] 一般 800(640)円/学生 700(560)円/中高生・65歳以上 600(480)円 ※( )は20名以上の団体料金



〈私としての私 I am as I am〉より 1999年  
ゼラチン・シルバー・プリント 京都国立近代美術館蔵

関連イベント 講演会 畠山直哉(写真家)

[日時] 2017.7.7(金) 18:00-19:30

[会場] 東京都写真美術館 1階ホール

[定員] 190名(整理番号順入場/自由席)

[入場料] 無料/要入場整理券

※当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

## 「長島有里枝」展 (仮称)

**2F** 2017.9.30|土|-11.26|日|

長島有里枝は武蔵野美術大学在学中の1993年、「アーバーナート#2」展バルコ賞を受賞し、一躍注目を集めました。2001年には、写真集『PASTIME PARADISE』で第26回木村伊兵衛賞を受賞。近年では、2010年に『背中の記憶』で第26回講談社エッセイ賞を受賞するなど、活動の幅を広げています。本展では初期を代表するセルフ・ポートレイトのシリーズから、2007年にスイスで滞在制作をした植物のシリーズ、「女性」のライフコースに焦点を当てた新作までを一堂に展示します。「家族」や「女性」のあり方への違和感を作品で問い続け、その表現はさらなる広がりを見せつつあります。



《わたしたちの部屋(朝)》、〈SWISS〉より 2007年  
発色現象方式印画 東京都写真美術館蔵

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント 決定次第ホームページでお知らせします。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [助成] 芸術文化振興基金  
[協賛] 株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン  
[観覧料] 一般 800(640)円/学生 700(560)円/中高生・65歳以上 600(480)円 ※( )は20名以上の団体料金

## いま、ここにいる — 平成をスクロールする 春期

20 Year Anniversary TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part 1 In the Here and Now

**3F** 2017.5.13|土|-7.9|日|

平成期を代表する9名の写真家の作品シリーズに焦点を当て、写真家それぞれの「いま、ここにいる」この意味をめぐる表現を手がかりに、平成とはどのような時代なのかを考察します。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社  
[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金

出品作家

佐内正史、ホンマタカシ、高橋恭司、今井智己、松江泰治、安村崇、花代、野村佐紀子、笹岡啓子

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

スタンプラリーの  
詳細はP12を  
ご覧ください

## シンクロニシティ — 平成をスクロールする 秋期

20 Year Anniversary TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part 3 Synchronicity

**3F** 2017.9.23|土・祝|-11.26|日|

平成の時代の写真・映像作品は、「現実」のあいまいさや多義性を様々な視点から、小さな「現実」や小さな「物語」として描き出してきたと言えるでしょう。シンクロニシティとは、同時に起こるばらばらな物事が一致したり、共通したりする現象を言います。本展では平成の写真家たちが捉える個々のリアリティのつながりや響き合いを新たな視点から検証します。

関連イベント 決定次第ホームページでお知らせします。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社  
[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金



川内倫子《Untitled》、〈うたたね〉より

出品予定作家

大森克己、川内倫子、北野謙、蛭川実花、野口里佳、原美樹子、浜田涼 ほか

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

スタンプラリーの  
詳細はP12を  
ご覧ください

## 世界報道写真展2017 WORLD PRESS PHOTO 17

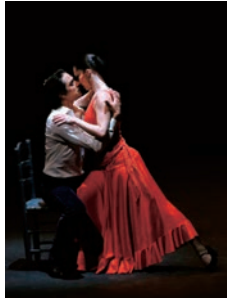
**B1F** 2017.6.10|土|-8.6|日|

毎年、世界中の約100会場で開催される世界最大規模の写真展「世界報道写真展」。今年は125の国と地域、5,034人のフォトグラファーから80,408点の応募がありました。大賞を含む受賞作品を紹介します。

[主催] 世界報道写真財団/朝日新聞社 [共催] 東京都写真美術館 [協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
[後援] オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会/全日本写真連盟  
[観覧料] 一般 800(640)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 400(320)円 ※( )は20名以上の団体料金

フォトドキュメンタリー・ワークショップ

[主催] 東京都写真美術館 [共催] 朝日新聞社  
2017.7.15(土)-17(月・祝) 3日間連続 [定員] 20名  
国内では数少ないフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの現場を学べるプログラムです。要事前申込み。  
※詳細はホームページをご覧ください



©Javier del Real  
お問い合わせ先  
T&Kテレフィルム 03-3486-6881  
映画公式サイト  
www.tk-telefilm.co.jp/gades/

### アントニオ・ガデス舞踊団 in シネマ 「カルメン」「血の婚礼／フラメンコ組曲」

上映作品はフラメンコを芸術の域にまで高めた、アントニオ・ガデスの三大名作「カルメン」、「血の婚礼」、「フラメンコ組曲」。いずれもガデス生誕75周年を記念して2011年に行われた、マドリッド王立劇場(テアトロ・レアル)における特別公演のライブ収録映像で、首都マドリッドの目と耳の肥えた観客にガデス直系の舞踊団の実力を余すところなく見せて、火の出るような白熱した舞台が繰り広げられます。嵐のようなアンコールまで、存分にお楽しみください。

※「血の婚礼」と「フラメンコ組曲」はセットで上映。

【上映時間】

2017.7.1(土)-7.7(金) 12:10-「血の婚礼/フラメンコ組曲」、14:30-「カルメン」  
2017.7.8(土)-7.14(金) 12:10-「カルメン」、14:30-「血の婚礼/フラメンコ組曲」  
【休映日】7.3(月)、7.10(月)

【料金】当日券一律2,800円 ※各種割引なし ※未就学児は入場不可



Photo of Robert Frank by Lisa Rinzier, copyright Assemblage Films LLC



1  
2  
3  
映画公式サイト  
『Don't Blink ロバート・フランクの写した時代』  
robertfrank-movie.jp  
『写真家ソール・ライター  
急がない人生で見つけた13のこと』  
saulleiter-movie.com  
『世界一美しい本を作る男  
〜シュタイデルとの旅〜』  
steidl-movie.com

### 「ソール・ライターとロバート・フランク with STEIDL」

写真家を描いたドキュメンタリー映画が、近年増えています。中でも、この春、日本で初めての個展が開催されたソール・ライターと、昨年、東京藝術大学にて巡回展が開催されたロバート・フランクを描いたドキュメンタリー2作品は、その対照的な人生のあり方も含めて大きな反響を呼んでいます。TOPミュージアムでは、この2作品に加え、STEIDL社の創業者であるゲルハルト・シュタイデルを追ったドキュメンタリーも上映し、写真家という生き方について、また写真家とどのように一冊の写真集を生み出すのか、貴重な映像を織り交ぜた作品を通じて、考えるプログラムを企画しました。ぜひ、この機会に3本一緒にご高覧ください。

【上映作品】

- 1.『Don't Blink ロバート・フランクの写した時代』
- 2.『写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと』
- 3.『世界一美しい本を作る男〜シュタイデルとの旅〜』

【上映期間】7.15(土)-8.5(土) 【休映日】7.18(火)、7.24(月)、7.31(月)

【上映時間】

7/15-17	13:00世界一	15:00ソール	17:00ロバート	19:00ソール
7/19-21	13:00ロバート	15:00ソール	17:00世界一	19:00ロバート
7/22,23	13:00ソール	15:00世界一	17:00ロバート	19:00ソール
7/25-28	13:00ロバート	15:00ソール	17:00世界一	19:00ロバート
7/29-8/5	15:00ソール	17:00ロバート		

【料金】『Don't Blink ロバート・フランクの写した時代』一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円/各種割引あり  
『世界一美しい本を作る男〜シュタイデルとの旅〜』『写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと』 各1,200円 ※各種割引なし

#### 各種割引

以下の方は当日料金が割引になります。  
写真美術館パスポート会員証提示、当館での展覧会・映画の半券提示、三越カード・伊勢丹カード・アトレビュー・Suicaカード提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

### また来なくなる！ TOPスタンプラリー

リニューアル・オープン後、初のシリーズで開催中のTOPコレクション「平成をスクロールする」展では、春期、夏期、秋期の3つのシーズンをとおして、TOPオリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを開催しています。

スタンプ2つ	特製TOPオリジナル鉛筆(非売品)
スタンプ3つ	選べるTOPオリジナルポストカード(数種から1枚をお選びください)

スタンプラリー実施期間	11.26(日)まで
スタンプカード配布期間	9.18(月・祝)まで

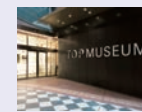
スタンプカードは本展をご鑑賞の方に、3階展示室入口にてお渡しいたします。プレゼントの引換は7月15日(土)より、2階ミュージアム・ショップ ナディッフ バイテンでおこないます。

❗ ※グッズは変更される場合があります ※グッズの数に限りがございます。あらかじめご了承ください ※お一人様につき本カード1枚のご利用に限りです ※各展につき押印は1つです。同日の再入場や、同展への2回目以降の来場は押印されません。

展覧会の詳細	春期 「いま、ここにいる」展 5.13(土)-7.9(日) > 本紙 P10	夏期 「コミュニケーションと孤独」展 7.15(土)-9.18(月・祝) > 本紙 P5	秋期 「シンクロニシティ」展 9.23(土・祝)-11.26(日) > 本紙 P10
--------	--	--	--



### 7月20日(木)-8月25日(金)の木・金は午後9時まで開館



当館では、上記期間中の木・金は開館時間を延長して、皆様のご来館をお待ちしております。詳細はホームページのご利用案内をごらんください。(http://www.topmuseum.jp/contents/pages/guide\_index.html)

ご利用案内の詳細ページはこちら▶



### 「チケ得」をご存じですか？

展覧会・映画チケットの提示で、恵比寿ガーデンプレイスで特典が受けられます



展覧会・映画の当日有効のチケットを恵比寿ガーデンプレイスの各店で提示すると、割引などの特典が受けられる「チケ得」を開催中です。プレミアムフライデーや木・金の夜間開館にもぴったり！ 詳細は恵比寿ガーデンプレイスホームページ(http://gardenplace.jp/ticket/)をごらんください。

恵比寿ガーデンプレイス「チケ得」ホームページ



2F SHOP

ミュージアム・ショップ

NADIFT  
BAITEN

詳細  
ページは  
こちら



写真集や写真に関する貴重本・最新刊が充実しているミュージアム・ショップ。ゆっくりとお気に入りの一冊をお選びいただけます。



深瀬昌久「鴉」複製版  
10,800円(税込)



明るく開放的な店内には  
書籍がびっしり。

営業時間／10:00-18:00

(木・金は20:00まで ※ただし、7月20日-8月25日の木・金は21:00まで)

TEL／03-6447-7684

定休日／毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE

カフェ

MAISON ICHI  
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

詳細  
ページは  
こちら



LUNCH MENU (11:30-15:00)

ズワイ蟹とブロッコリーのキッシュ	1,080円
スペルト小麦田舎パンのクロックマダム	1,080円
自家製チキンのシーザーサラダ	1,080円
自家製ローストビーフ&デリプレート	1,296円
Lambのラザニア MAISON・ICHI風	1,296円
夏野菜とマッシュポテトのオープン焼き	1,296円
※自家製パンがつかます (価格はすべて税込)	

メニューは予告なく変更される場合があります。



営業時間／10:00-20:00(7月1日からは19:00まで。木・金は20:00まで。  
※ただし、7月20日-8月25日の木・金は21:00まで)

TEL／03-6277-3862 定休日／毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

## 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

### 《特別賛助会員》

キヤノン(株)  
(株)オノンホールディングス  
(株)資生堂  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

### 《賛助会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)  
大日本印刷(株)  
凸版印刷(株)  
富士フイルム(株)  
(株)リコー

### 《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)  
トヨタ自動車(株)  
(株)パラゴン

### 《支援会員》

(株)I&S BBDO  
あいおいニッセイ同和損害保険(株)  
アオネオン(株)  
(株)AOI Pro.  
(株)アサツー ディ・ケイ  
旭化成(株)  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
アスクル(株)  
(有)アスペン/POLARIS  
(株)アートよみうり  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
ウェスティンホテル東京  
(株)潮出版社  
内田写真(株)  
(株)栄光社  
(株)エージーピー  
(株)エスジー  
(株)ADKアーツ  
(株)NHKアート  
NHK営業サービス(株)  
(株)NHKエデュケーション  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHKグローバルメディアサービス  
(株)NHK出版  
(株)NHKビジネススクリエイト  
(株)NHKメディアテクノロジー  
NTT都市開発(株)  
エプソン販売(株)  
エルメス財団

オリックス(株)  
オリンパス(株)  
(株)オンワードホールディングス  
花王(株)  
カシオ計算機(株)  
鹿島建設(株)  
(株)KADOKAWA  
カトーレック(株)  
神奈川新聞社  
(株)かんば生命保険  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ  
キックマン(株)  
(株)紀伊國屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
(一社)共同通信社  
協発キリン(株)  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)廣濟堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスターナショナル  
(株)コーセー  
コダック(同)  
コダックアラミスジャパン(株)  
(株)コバヤシ  
小山登美夫ギャラリー(株)  
(株)ザ・アール  
三機工業(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)サンライズ  
(株)ジェイアール東日本企画  
JSR(株)  
JXホールディングス(株)  
ジェイティーピー印刷(株)  
(株)シグマ  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
(株)写真弘社  
写真の学校/東京写真学園  
チャンネル(株)  
(株)集英社  
(株)主婦と生活社  
(株)主婦の友社  
(株)小学館  
城西国際大学メディア学部  
松竹(株)  
信越化学工業(株)  
(株)新潮社  
(株)スタジオアリス

(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
スターツ出版(株)  
(株)SUBARU  
住友化学(株)  
住友生命保険(相)  
(株)スリーポンド  
(株)生活の友社  
セイコーホールディングス(株)  
(株)青春出版社  
成美製版(株)  
積水ハウス(株)  
ソニー(株)  
損害保険ジャパン日本興亜(株)  
第一生命保険(株)  
第一法規(株)  
(株)ダイケンビルサービス  
大成建設(株)  
(株)大丸松坂屋百貨店  
大和証券(株)  
(有)タカ・イシイギャラリー  
高砂熱学工業(株)  
(株)高島屋  
(株)宝島社  
(株)竹中工務店  
玉川大学芸術学部  
(株)タムロン  
(株)丹青社  
千葉商科大学政策情報学部  
(株)中央公論新社  
中外製薬(株)  
帝人(株)  
(株)TBSテレビ  
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)  
(株)テレビ朝日  
(株)テレビ東京  
電源開発(株)  
(株)電通  
東亜建設工業(株)  
東映(株)  
東急建設(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
東京急行電鉄(株)  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
(株)東京スタデオ  
東京造形大学  
東京総合写真専門学校  
東京テアトル(株)  
東京都競馬(株)  
(株)東京ドーム  
(株)東京美術倶楽部  
(株)東京ニュース通信社  
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ

東京メトロポリタンテレビジョン(株)  
(株)東芝  
東宝(株)  
(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社  
東洋熱工業(株)  
(株)トキワ  
(株)徳間書店  
戸田建設(株)  
(株)トータルプランニング  
オフィス  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコイメーキングジャパン  
日外アソシエーツ(株)  
日活(株)  
(株)日経BP  
日光ケミカルズ(株)  
日産自動車(株)  
(株)日本カメラ社  
日本空港ビルデング(株)  
日本経済新聞社  
(株)日本廣告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本コルマー(株)  
(株)日本色材工業研究所  
日本写真印刷(株)  
(公社)日本写真家協会  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
(一社)日本写真文化協会  
日本大学芸術学部  
日本たばこ産業(株)  
日本テレビ放送網(株)  
(株)ニッポン放送  
日本ロレックス(株)  
(株)ニューアートディフュージョン  
ノーリツ鋼機(株)  
野村證券(株)  
(株)博報堂  
(株)博報堂DYメディア  
パートナーズ  
(株)博報堂プロダクツ  
(株)バス・コミュニケーションズ  
(株)ハースト婦人画報社  
パナソニック(株)  
バリミキ  
びあ(株)  
ビービーメディア(株)  
北海道写真の町東川町  
東日本旅客鉄道(株)  
光写真印刷(株)  
(株)ピクトリコ  
(株)ビックカメラ  
(株)ビデオプロモーション  
ビノキ新薬(株)  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)フジテレビジョン  
(株)双葉社  
(株)ブラザクリエイト  
(株)プリンスホテル  
(株)フレームマン  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
(株)ベネッセホールディングス  
ベルボン(株)  
北海道新聞社  
(株)ホテルオークラ東京  
(株)堀内カラー  
本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
(株)マガジンハウス  
丸善(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム  
(株)みずほ銀行  
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店  
三菱地所(株)  
三菱製紙(株)  
三菱倉庫(株)  
三菱電機(株)  
三菱UFJ信託銀行(株)  
(株)ミルボン  
武蔵大学  
明治安田生命保険(相)  
森ビル(株)  
ヤマトロジスティクス(株)  
横河電機(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
読売新聞社  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
リコーイメージング(株)  
リシュモン ジャパン(株)  
モンブラン  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート  
(株)ワコール  
(株)ワッツ オブ トーキョー

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人  
(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(平成29年5月現在・五十音順)



# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
topmuseum.jp またはこちらへ ▶



	3F	2F	B1F	1F
2017 6	総合開館20周年記念 TOPコレクション いま、ここにいる —平成をスクロールする 春期(☑)	総合開館20周年記念 ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館 5.20(土) - 7.17(月・祝)	世界報道写真展2017 6.10(土) - 8.6(日)	笑う101歳×2 笹本恒子 むのたけじ 6.3(土) - 6.30(金)
7	5.13(土) - 7.9(日)			アントニオ・ガデス 舞踊団 in シネマ 「カルメン」
8	総合開館20周年記念 TOPコレクション コミュニケーションと孤独 —平成をスクロールする 夏期(☑)	総合開館20周年記念 荒木経惟 1971 - 2017 - センチメンタルな旅 7.25(火) - 9.24(日)	エクスパンデッド・ シネマ再考(☑)	「血の婚礼」/ フランコ組曲 7.1(土) - 7.14(金)
9	7.15(土) - 9.18(月・祝)		8.15(火) - 10.15(日)	「ソール・ライターと ロバート・フランク with STEIDL」 7.15(土) - 8.5(土)
10	総合開館20周年記念 TOPコレクション シンクロニシティ —平成をスクロールする 秋期(☑)	「長島有里枝」展(仮称) 9.30(土) - 11.26(日)	写真新世紀東京展2017 10.21(土) - 11.12(日)	
11	9.23(土・祝) - 11.26(日)		第18回上野彦馬賞 11.18(土) - 11.26(日)	

☑ 「ぐるっとパス 2017」対象の展覧会 | 「ぐるっとパス 2017」の詳細はこちら▶



## 割引料金について

### 割引対象

展覧会を割引料金にてご覧いただけます

1. 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
2. 各種会員の方 観覧料が2割引
  - ☐アトレビューSuicaカード
  - ☐MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
  - ☐ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
  - ☐当館映画鑑賞券提示者
  - ☐財団他館友の会、年間パスポート会員
  - ☐JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
3. 親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象) 観覧料が5割引
  - ☐都民で18歳未満のお子様を連れただご家族が対象です。 ※詳しくはお問い合わせください。

### 無料対象

展覧会を無料でご覧いただけます

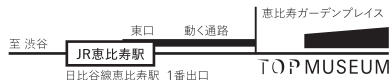
1. ☐小学生以下
  - ☐障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - ☐被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - ☐愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - ☐精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - ☐東京都内在住・在学の中学生
 ※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。 当館までお問い合わせください。
2. シルバーデー(毎月第3水曜日)
  - ☐65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

## 東京都写真美術館 年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2017」発売中

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけます。販売価格:3,240円(税込) 有効期間:2017年4月1日(土)より2018年3月31日(土) 販売場所:当館1F総合受付 特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで)。ただし、7月20日(木) - 8月25日(金)の木・金は21:00まで開館。入館は閉館の30分前まで。休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始 ※最新情報はホームページをご確認ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ17」91号 □発行日:2017年6月14日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2017 □本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。 ※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。